

八月のお盆を終えたちょうど今ごろ、「地蔵^{じぞう}盆^{ぼん}」という、お地蔵さまの縁日を開く地域があります。お地蔵さまは、弱い立場のものにまで心を配り、助けてくださる仏さまです。

「地蔵盆」を知らない方でも、「笠地蔵」のお話は小学校の教科書や絵本で知っているのではないのでしょうか。

昔ある所に、おじいさんとおばあさんが住んでいました。年の瀬になり、おじいさんは、お正月の準備のため、頭に被る^あ編み^{がさ}笠を売ろうとして町に行きます。けれども、その日は笠が全く売れません、肩を落として帰路に就けば、吹雪になってきました。途中、お地蔵さまに雪が吹き付けているのを見て、売れなかった五つの笠と、自分がしていた笠をお地蔵さまに被^{かぶ}せました。でも、あと一つ足りないのです。そこで、最後のお地蔵さまには自分が頭につけていた手拭いを被せてあげました。

家では、おじいさんが吹雪の中を無事戻ってくることを、おばあさんが待っておりまして。おじいさんは正直に一日のことを話しお正月のお餅が買えなかったことを伝えましたが、おばあさんは「それは良いことをしましたね」とお地蔵さまに笠をあげたことをとても喜んでくれました。

その日は夜になっても吹雪はやみませんでした。二人が静かに休んでいたところ、家の外でドサドサッと音がしました。二人が様子を見に玄関を開けると、そこには、お正月のお餅もお米も、たくさんの野菜まで山積みになっていました。「こんなものを誰が？」と辺りを見回すと、笠を被ったお地蔵さまと、最後に手拭いを被ったお地蔵さまの後ろ姿が目に入ったのでした。

おじいさんはきっと、吹雪に見舞われたお地蔵さまの姿を見て、「石のお地蔵さまでも、この吹雪ではつらかろう」と心を動かされたのでしょうか。「お地蔵さまのために」という一心で笠も手拭いもためらいもなく差し上げたおじいさん……。

その心はあらゆるものを思い、そして助けて下さるお地蔵さまと同じ心だったのではないのでしょうか。だからこそ、石のお地蔵さまは、おじいさんの元へお正月のお餅を届け、共にお正月を迎えようとしたのだと思います。

「地藏盆」は、子どもたちの縁日ともいわれます。損得を勘定せず無邪気に遊ぶ子どもたち、分け隔てなく誰とでも遊べる幼子。そこにはおじいさんと同じ、お地藏さまの心が現れているような気がしてなりません。

私たちがお地藏さまをお参りするときにも、分け隔て無く、誰に対しても優しく接する気持ちで手を合わせ、お地藏さまの心を学びたいものです。

— 終 —